

## 吉田高校・富士北稜高校 交流会

参加者：吉田高校 2年6クラス「保育基礎」・3年「ライフサポート」1名  
：富士北稜高校3年6名「保育基礎履修」  
：当園全園児

### 1. 目的と経緯

- 吉田高校：授業の一環として、幼い命と触れ合うことにより大人や親としてのあるべき姿を学び、保育者の役割や保育の実際を理解する。
- 富士北稜高校：観察実習から園児の発達の様子を理解する。  
交流実習で園児の発達段階にあった保育内容を考え、実習を通しての振り返りをする。
- 当園 全園児：普段あまり関りがない高校生とたくさん触れ合い楽しく遊ぶ。

### 2. 内容

- 吉田高校：2年次=グループに分かれて各クラスに入り、保育見学及びふれあい遊び  
：3年次=保育の中に入り子どもの援助や教諭の動きを学ぶ
- 富士北稜高校：1回目は見学実習  
2回目は1回目の体験を生かし、年齢にあった絵本の読み聞かせを行う。



### 3. 成果と課題

- 高校生：はじめはどの様に接したら良いのか困惑する姿が見られたが、時間と共に園児との距離が縮まり、固定遊具やサッカー、鬼ごっこなどで楽しく関わり遊ぶことが出来た。  
：交流前の諸注意で「命を預かっている」ことを伝えたところ、真剣に話を聞いていた。  
：後に提出された感想文には、「意外に話が伝わる」や「何でもできることが分かった」という園児の実態について理解度が深まった文が多くみられた。  
：絵本の読み聞かせは、事前に読み込んで内容を把握する必要があると、与える側は単に読むだけではなく準備が必要であることを体験を通して知る事ができた。
- 園児：普段あまり関わる事が無い「高校生」との触れ合いは、子ども達にとって楽しい時間となった様子が窺えた。日頃関わる職員が女性ということもあり、男子生徒と思いきり走り回ったり真剣勝負でサッカーをする姿が印象に残った。